

Medical Tribune

2014年12月4日 Vol.47, No.49

株式会社メディカルトリビューン 東京都千代田区九段南2-1-30 イタリア文化会館ビル8F 〒102-0074
毎週木曜日発行 購読料=年間12,000円+税(送料込) ©Medical Tribune, Inc. 2014

第21回日本未病システム学会学術総会

人間ドック学会と専門学会との 基準範囲の差は未病を示す

「未病」の概念は、西洋医学的には自覚症状はないが検査値異常がある状態、東洋医学的には自覚症状はあるが検査値異常はない状態を称している。しかし、この病気でもない健康でもない「非病非健」の範囲については明らかでなかった。一般財団法人博慈会老人病研究所(東京都)所長の福生吉裕氏は、今年(2014年)4月に発表された日本人間ドック学会の健診基本検査の基準値と、日本高血圧学会や日本動脈硬化学会が作成している基準値との乖離を検討する中で、2つの基準値の差こそが未病の範囲を表しているとの考え方を、



同学術総会ポスターセッションで発表する福生氏(中央)

第21回日本未病システム学会学術総会(11月1~2日、会長=国立循環器病研究センター生活習慣病部門部長・河野雄平氏)で提示した。

健康の上限値、疾患の下限値を それぞれ示すとの見方

日本人間ドック学会の発表した基準値と日本高血圧学会・日本動脈硬化学会が作成している高血圧や脂質異常症の基準値に齟齬が生じ、健診現場をはじめ一般診療の場でも混乱が生じてしまった。そこで福生氏は、これらの基準値が算出される根拠を検討し、基準値の比較を行った。

日本人間ドック学会が発表した「新たな健診の基本検査の基準範囲」は、2011年に人間ドックおよび健康診断の受診者150万人のデータから、米・Clinical Laboratory Standard Institute(CLSI)の基準および潜在異常値除外法を用いて最終的に抽出された「超健康人」(異常項目がない人)

1万~1.5万人の検査値から求めたもの。つまり、自覚症状のない健康な人からの基準値の設定であり、しかも健康状態の極限範囲、健康の上限値と考えることができるなどとする解釈を示した。

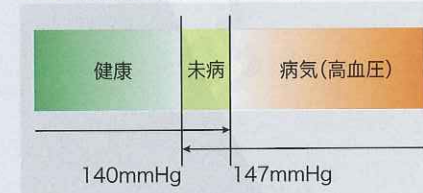
一方、日本動脈硬化学会や日本高血圧学会が作成した基準値は、一般住民の科学的・長期的追跡調査からイベント発生率、死亡リスクを検討して作成されたもの。将来疾患を発症する最小リスクを有する人からの設定であり、健康ではない範囲の始まり、病気の始まりとの考えを同氏は示した。

「未病」というイエローゾーンの設置を

したがって、これらの基準値の間範囲が、自覚症状はないが検査値異常がある範囲、すなわち西洋医学的未病の範囲として浮かび上がってきた、と福生氏は自説を提唱した。例えば収縮期血圧であれば、日本人間ドック学会の基準は健康と判断する側から147mmHgとされ、一方、日本高血圧学会の基準は疾患リスクを判断する側から140mmHgとされ、この間である140~147mmHgが未病の範囲となる(図)。

同氏は「学会による基準値の違いは、3次元的な健康域から見るか、4次元的に病気発症を考慮して見るかで生じた齟齬といえる。この次元の違う齟齬こそが、未病の概念が当てはまる非病非健の領域であり、それが数値的に明らかになった(表)。今回の基準値をめぐる騒動で、図らずも未病が数値としてあぶり出されてきた。少子高齢時代では柔軟に未病というイエローゾーンを設置していく知恵もいいのではないか」と発表した。

〈図〉収縮期血圧の未病の範囲



〈表〉浮かび上がってきた未病の範囲

項目	未病の範囲
収縮期血圧(mmHg)	140~147
拡張期血圧(mmHg)	84~94
中性脂肪(mg/dL)	男性 150~198 女性 134~149
γ-GTP(U/L)	男性 51~85 女性 40~50
BMI	25~27.7
総コレステロール(mg/dL)	男性 199~254
LDLコレステロール(mg/dL)	119~178

(福生吉裕氏提供)